

事業名称	「地域から発信する古代オリエント文明」プロジェクト		
実行委員会	「古代オリエントをたのしむ」実行委員会		
中核館	公益財団法人 古代オリエント博物館		
	住所	〒170-8630 東京都豊島区東池袋 3-1-4 サンシャインシティ文化会館 7 階	
	TEL	03-3989-3491	FAX 03-3590-3266
	ホームページ	http://aom-tokyo.com/	
構成団体	株式会社サンシャインシティ；横浜ユーラシア文化館；大阪府立弥生文化博物館；MIHO MUSEUM；高梁市成羽美術館		
事業開始時点の課題分析	<p>古代オリエントとは、現在は中近東と呼ばれる人類文明発祥の地のことである。ここから、現代生活に欠かせない農業、牧畜、都市、国家、宗教、冶金技術、文字、ハンコ、貨幣制度等が誕生した。そして、シルクロードを通して日本の文化に大いに影響を与えている。中核館は、この古代オリエントを専門とする日本で最初の博物館であり、「人類文化」の枠組からの視野を提供し、日本の将来を担う子供たちにその生の資料に触れてもらうために展覧事業を継続してきた。</p> <p>平成 28 年度、平成 29 年度には「文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、子供たちが楽しんで古代オリエントを学ぶことができるワークブックやワークシートを製作し、それらを使ったワークショップを開催することで、古代オリエントの情報を更に発信することができた。しかしながら、今後学校教育の場で「古代オリエント」が扱われることが減少する動きも出ており、中核館のような草の根運動的な情報発信と学びの場の提供は、人類の未来に向けて、将来を担う世代の国際的視野の涵養や国際人意識の醸成に益々その重要度を増してきている。そして、このような古代オリエントの資料の重要性も然ることながら、昨今この地域が陥っている政治的混乱と文化財破壊という悲惨な状況を看過することができないことも明らかである。この問題に対しては、大学や関連学会などの研究機関が高い危機意識を持って活動をしているが、地理的に遠く離れた日本の一般社会においては、まだまだ無関心層が多いのが現状である。今回のプロジェクトでは、古代オリエントを学ぶ楽しさと共に、これらの地域の現状を伝えながら、人類の文化遺産についても深く知り、考える機会を提供する。</p> <p>また、東京都内有数の外国人居住地の豊島区にありながら、外国人来館者の取り込みは依然不十分であり、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、視聴覚資料の多言語化、図録の多言語化などが望まれる。</p> <p>加えて、これまで取り組んできた社会人向け講座事業を、更に幅広い年齢層の人々にも提供できるような生涯学習的事業に拡大発展させる。</p>		
事業目的	<p>本事業の長期的且つ最終目的は、古代オリエントの資料を所蔵する当館を中心とする日本の博物館・美術館が人類の歴史と文化を学ぶ場として活用されると共に、文化遺産を次世代につなげていくことの重要性を一般の人々、特に若い世代にアピールすることである。各館がそれぞれの地域からこれらを国際的に文化発信したい。これはそのまま地域社会への貢献にもつながる。そのためには、(1) 時代も場所も遠く離れた古代オリエントの資料を所蔵する博物館・美術館の存在を、地元は元より広く国内外に知らせ</p>		

	<p>め、(2) 本物の資料を楽しみながら、人類の来し方行く末を考える場を提供することを 目指す。中核館を中心に、各地域の専門博物館・美術館が連携することで、国内各地に 古代オリエントという専門性に特化した新しい学びの拠点、国際発信場を築くことを目 指す。</p>
<p>事業概要</p>	<p>平成 28 年度・29 年度では、(1) 「社会人」、(2) 「外国人」、(3) 地域の「児 童」を対象にした事業を展開した。平成 30 年度は、これを更に (1) 「社会人＝生涯学 習を希望する全ての人々」、(2) 「外国人」、(3) 地域の「児童・生徒」に広げるこ とで完成度を高めた。</p> <p>(1) 「社会人」向けには、生涯学習の観点から、バラエティに富む講師と演題を準備 し、「古代オリエント講座」を開講した。</p> <p>(2) 「外国人」については、博物館エントランスのメディアルームで上映している 20 分弱の視聴覚資料の多言語化を図った。展示導入部として重要な資料であるにもかか わらず、これまでは日本語のみの上映であったが、今回は音声と字幕の両面から多言語 化を進めた。また、アンケート調査を継続し、そこから得たフィードバックを活かすこ とで、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを目途とした完成形を目指した。</p> <p>(3) 「児童・生徒」のためには、これまで製作したワークブックやワークシートを用 いたワークショップを開催すると共に、新規にも製作した。これまでは通史や美術を題 材にしたが、今回は素材や製作方法などに焦点を当て、古代オリエントを更に深く学べ るようにした。ワークショップはこれらの教材に基づく座学の他、製作教室・体験教室 の開催によって、自分の体を動かして古代オリエントを知り、国際的視野の醸成を図っ た。これらの実施に当たっては現場教員との連携を図り、より効果的で実際的な開催と なったと思われる。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 ■イ ユニークベニューの促進 ■ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 □エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携に よるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 □イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 ■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 ■エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> □ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活 動 □イ 文化財の新たな保存管理・活用手法の開発

施後の 成果・効果等	<p>本事業の目的は、長期的且つ最終的目的は、古代オリエントの資料の所蔵する当館を中心とする日本の博物館・美術館が人類の歴史と文化を学ぶ場として活用されると共に、文化遺産を次世代につなげていくことの重要性を一般、特に若い世代にアピールすることであった。それに基づき、①幅広い年齢層（社会人＝生涯学習を希望するすべての人々）、②外国人、③地域の児童・生徒を対象とした3つの事業を展開した。</p> <p>①社会人（生涯学習を希望するすべての人々）向けには、オリエント講座と題して、中核館以外にも連携館を中心に地方（いわき市、和泉市、うるま市）で無料講座を実施した。和泉市では2回おこなったが、両方ともに200人前後の受講者があり、古代オリエントになかなか触れる機会のない地域の人々に古代オリエントへの興味を継続してもらったと言えらる。また、古代オリエント研究の先駆者によるパイオニアセミナー、現在第一線で活躍しているトップランナーズセミナーにおいては、古代オリエントの研究者と大学生、高校生らの若い世代との交流が図られた。</p> <p>②外国人来館者向けには、博物館エントランスにて上映している映像資料の多言語化（英・中・韓）を実施した。展示導入部の本映像資料（約15分）を多言語化することで、海外からの来館者にも古代オリエントについての理解を深めてもらうことができた。また、簡単な解説冊子の英・中・韓の三言語版も製作したことで、更に古代オリエントへの興味と理解を深めてもらうことができるようになった。</p> <p>③児童・生徒に対しては、ミステリーツアー（子供向けギャラリーツアー）、ファイアンス（古代エジプトの焼き物）制作体験教室、人形を使ったミイラ制作体験教室、織物制作体験教室、石膏製ウシェブティに色付体験教室、小型タイルや石膏を使ったモザイク画の製作や修復作業の体験教室など、多種多様な新規ワークショップを実施した。ベリーダンスのような実技教室も含め、体験型ワークショップは五感を使って子供たちの知的好奇心を刺激し、博物館への垣根を低くすることができる好機である。リピーターとなった児童・生徒もおり、非常に手ごたえを感じた。また、ミイラとウシェブティのワークショップは、早速他館からの実施依頼が相次ぎ、地方（岡山市、高梁市、和泉市）での複数回の開催となった。会場を跨いだ（岡山市と高梁市）連続参加者もおり、古代オリエントに対する興味の深化が今後期待できる結果となった。一つの地域（今回は岡山エリア）で繰り返しワークショップを開催することの意義と重要性が明らかとなった。実行委員でもある現場の高校教員との連携により作成した博物館で学ぶ高校世界史問題集『試験を楽しむキーワード100』には完成直後より現場教員からの問い合わせが相次ぎ、都内は勿論のこと、岡山県、兵庫県などの教育現場との今後の連携が見込まれている。</p>
---------------	---

【事業実績】

1. 「古代オリエントをたのしむ」生涯学習事業

(1) 古代オリエント講座の開催（中核館・連携館・他館との連携）

<2018年>

- 7月29日(土) シンポジウム「現代に伝わる古代オリエント」(中核館)
- 10月13日(土) 講演会「古代エジプト神話のひみつ」(大阪府立弥生文化博物館)
- 12月2日(日) パイオニアセミナー「西アジア考古学を切り開いてきた開拓者たち」(中核館)
- 12月8日(土) 講演会「古代金属利用のひみつ」(大阪府立弥生文化博物館)
- 12月22日(土) 講演会「勝連城跡出土西洋コインの謎」(沖縄県立埋蔵文化財センター)

<2019年>

- 2月17日(日) 西アジア考古学トップランナーズセミナー(中核館)
- 3月9日(土) 講演会「古代オリエントの銀」(いわき市石炭・化石館ほるる)

2. 古代オリエント多言語発信事業

- (1) 外国語版展示解説冊子の製作
- (2) 多言語映像メディアの制作
- (3) 多言語ウェブページの充実
- (4) アンケートの実施

3. 古代オリエント体験型学習事業

- (1) 「古代オリエントをたのしむ」ワークシート制作及び広報用印刷物製作・送付
 - ① 「児童・生徒のための学習プログラム」ページをウェブページ上に追加制作
 - ② ワークシート
- (2) 「古代オリエントをたのしむ」ワークブック製作
 - ① 試験をたのしむキーワード100
- (3) 「古代オリエントをたのしむ」体験立体物制作：3Dマップ
 - ① 古代オリエントの立体地図
- (4) 「古代オリエントをたのしむ」ワークショップ開催

<2018年>

- 8月11日(土) オリ博ミステリーツアー(中核館)
- 8月12日(日) 古代の焼き物「ファイアンス」で自分だけのデザイン小物を作ってみよう!(中核館)
- 8月18日(土) ベリーダンス体験教室:古代エジプトの踊りに挑戦!(中核館)
- 8月19日(日) 人形を使って古代エジプトのミイラの作り方を学ぼう!(中核館)
- 8月25日(日) ヒエログリフと楔形文字に挑戦!(中核館)
- 10月13日(土) ミイラの製作教室~ミイラ作りのひみつ~(大阪府立弥生文化博物館)
- 10月20日(土) トンボ玉を作ってみよう!(岡山市立オリエント美術館)
- 11月3日(土・祝) 織物のひみつ(中核館)
- 11月17日(土) 古代エジプトの護符をつくろう!(大阪府立弥生文化博物館)
- 12月8日(土) あなただけのウシェブティをつくろう!(大阪府立弥生文化博物館)
- 12月15日(土) モザイクのひみつ(中核館)

<2019年>

- 3月3日(日) 人形を使って古代エジプトのミイラの作り方を学ぼう!(岡山市立オリエント美術館)
- 3月9日(土) オリジナルシャブティをつくろう!(高梁市成羽美術館)
- 3月21日(木・祝) ベリーダンス体験教室(中核館)